

人をきず付けること

大観小学校 四年 加藤 憲慎 かとう けんしん

ぼくは、人をきず付けることがぜったいダメだと思っています。その理由は、いくつもあります。

一つ目は、ぼくが初めて友達をきず付けてしまった時の話です。ようち園の年長さんの時、いつもたたいたり、けったり、ちよっかいしてくる友達がいました。いつもぼくは、ちよっかいを出されてもお母さんの言いつけを守ってやり返すことは、ありませんでした。でも、その日は本当にはらが立ってやり返してしまいました。ぼくのふわふわのリュックでたたき返したしゅん間に、友だちの頭が切れて血がぶわつと流れてきました。たまたまその中にお気に入りの石をリュックにいれていたのを忘れていて、石が当たってしまったのです。友達は、泣いて大あわてで、ぼくもびっくりしてこわくなりました。同時に、

「なんでたたいてしまったのだろう。」と、とても後かいました。友達に悪いなという気持ちがすごくありました。ま

た、これから仲直り出来なかったらどうしようと不安になりました。このぼくの経験から、これから後かいしないように友達をきず付けることはしないと決めた理由です。

二つ目は、悪口やぼう言で人をきず付けてはいけないと思います。言われた方は、ずっと悲しいし、ごめんとあやまられても心にきずが出来るからです。心のきずは、心が強い人、弱い人に関係なく治すのがむずかしいと思います。また、その悪口やぼう言が聞こえてしまった周りの人の気分も悪くなると思います。だから、言葉で人をきず付けてはいけないと思った理由です。

最後に、ぼくの周りでも、友達をからかったりきず付けたり、ぼう言をはく友達がいます。これい上、きず付く人がふえないように、ぼくは注意をしていきたいと思っています。

この考えをみんなで共有して、もっともつと仲良く、助け合える学校になってほしいです。